

授業科目名	法学入門	必修	開講年次	1	単位数	2
科目区分	専門科目					
サブタイトル	法学／法律学の基礎を学ぶ	担当者	青木 柳澤(謙) 小林 柳澤(眞)			
講義概要	<p>【概要】</p> <p>この授業は、これから法学部生として学んでいくために必要な基礎的素養を身につけ、法学／法律学に興味を引き出すための講義です。皆さんにとって身近な話題も素材としながら講義を進めていきます。また、法的なものの考え方に関する事柄の基礎にも触れることになります。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①法学／法律学に興味をもつこと、②学習に必要な基礎的素養を身につけること、③授業の内容を短い時間でまとめてノートに筆記し、自らの知識として身につくように復習により定着させる習慣をつけること、を最低限の目標として掲げます。</p>					
履修条件	特になし。ただし、新入生は学期始めのガイダンス時に指定されたクラスで受講して下さい。					
教科書・参考書	<p>【教科書】ポケット六法〔平成22年(2010年)版〕(有斐閣、1890円)</p> <p>【参考書】必要に応じて授業中に指示・紹介します。</p> <p>他の必修法学科目(憲法概論・民法概論など)の教科書を繰り返し読むことも大切です。</p>					
授業回数	内容					
1	開講にあたって：受講と学修の方法、六法の解説、教室のルール					
2	法とは何か：法と社会、法と国家、法の概念、法の理念					
3	法と他の社会規範：法と道德、法と慣習、法と宗教					
4	法源①：成文法、成文憲法、法律、命令、自治法規、条約					
5	法源②：慣習法(意義と成立要件)、判例法、条理					
6	法の種類①：強行法と任意法、一般法と特別法、原則法と例外法					
7	法の種類②：公法と私法、実体法と手続き法					
8	法の種類③：固有法と継受法、国内法と国際法					
9	法律の解釈と適用①：法の効力、法解釈の必要					
10	法律の解釈と適用②：法解釈の方法と技術					
11	法の作用と司法の役割①：裁判所の仕組み、民事事件					
12	法の作用と司法の役割②：刑事事件、行政事件					
13	判例の読み方①：判決の構造、当事者(代理人)、弁護士、事実の認定					
14	判例の読み方②：主文と推論、理由と傍論					
15	今後の学修に向けて、まとめと試験の説明					
評価方法	定期試験100%。授業回数の2/3以上(15回中10回以上)出席しなければ定期試験を受験することはできません。					
評価基準	定期試験において講義内容を充分理解したと認められる答案にはA評価を、講義内容を網羅的に理解したと認められる答案にはB評価を、講義内容を一通り理解したと認められる答案にはC評価を、講義内容の理解が劣るものについてはその程度に応じてDまたはE評価とします。					
その他	講義中の私語や携帯電話の使用は禁止します。遅刻や欠席をするとその回の内容が抜け落ちてしまうなど自分自身にとって非常に不利となりますので、毎回しっかりと授業に参加して下さい。					